



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二五年度

秋田県消防協会評議員会開催される

新しい役員を選出



公益財団法人秋田県消防協会の平成二五年度評議員会が五月二十九日(水)、秋田市の「イヤタカ」で開催されました。

評議員会には、秋田県副知事堀井啓一様、秋田海上保安部次長松井俊二様、秋田県消防学校長中村基様が来賓として出席されたほか、評議員一五名が出席しました。

最初に殉職された消防職員・団員の御霊に黙祷を献げ、引き続き中泉会長があいさつ、堀井副知事から祝辞をいただきました。

議事に入り、平成二四年度会計決算や役員等の選任などが審議されました。その後臨時理事会において、辞任に伴う正副会長の選任について協議し、会長には現副会長中田潤氏、副会長には現理事の成田十喜男・海野達雄の両氏が選出、現会長中泉松之助氏は顧問に選任されました。

平成二十五年度全国統一防火標語

消すまでは 心の警報 ONのまま

会長あいさつ



会長
中泉 松之助

ご来賓並びに評議員の皆様には、当協会の運営に對しまして、それぞれの地域において、常日頃、格別なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年四月一日に移行登記を行って一年二ヶ月が経過しましたが、評議員会や理事会の権限、併せて役員を選任方法などが大きく変わり、色々と戸惑いがあるようですが、ご理解を賜りまして、より公益性の高い協会を目指し、地域防災力の向上に努めて参ります。

また、昨年一月に開催した「第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会」には県内外合わせて二五〇〇人が「秋田」に集まっていた、秋田らしさが随所に感じられ、素晴らしい大会であったと高い評価をいただき、御礼と感謝を申し上げます。

来賓祝辞



秋田県副知事
堀井 啓一

秋田県消防協会は、住民の皆様の安全・安心に対する関心が高まる中、住民の期待にこたえるべく、消防防災思想の普及啓発や地域における消防防災力の強化に取り組んでいただいておりますが、中でも重要なのが、消防団の充実であります。

消防団については、地域防災の要として、引き続き、消防に関する知識の習得や技術の向上、団員の士気高揚に、なお一層、お力を注がれますようお願い申し上げます。

昨年、県内においては、皆様のおかげで比較的火災の少ない年でありましたが、今年は昨年と比較して今日現在で火災が一六件増加しております。皆様におかれましては、「自らの地域は自らが守る」という精神の下、県民の安全・安心の確保に向け、より一層、お力を賜りますようお願いいたします。

■承認された議案

- ①平成二四年度事業の概要報告
- ②平成二四年度会計決算
- ③監査報告

■役員等の選任

*新たに選任された監事

成田俊昭

小坂町消防団長

鈴木清

男鹿市消防団長

高階健太郎

横手市山内消防団長

(任期は、平成二七年度定時評

議員会の終結の時まで)

*新たに選任された理事

周防彦宗

由利本荘市消防団長

渡辺雅人

秋田県総合防災課長

小林博美

秋田県消防長会会長

菅原達美

秋田県消防長会副会長

高橋尚文

秋田県消防協会事務局長

(任期は、平成二六年度定時評

*新たに選任された評議員

澤口紀夫

小坂町消防団副団長

金田咲美

北秋田市消防団長

金子忠夫

三種町消防団長

一関鎌一

五城目町消防団長

池田彰

大潟村消防団長

鈴木正

秋田市消防団副団長

佐々木護

にかほ市消防団長

石綿喜代隆

由利本荘市消防団副団長

佐々木輝一

由利本荘市消防本部消防長

伊東善輝

にかほ市消防本部消防長

泉信一

横手市横手消防団長

伊藤弘明

横手市消防本部消防長

佐藤敏彦

湯沢雄勝広域消防本部消防長

(任期は、平成二八年度定時評

議員会の終結の時まで)

■報告事項等

①平成二五年度事業計画及び収支

予算

②平成二六年度消防大会の開催支

部

③第五〇回秋田県消防操法大会出

場順

第50回秋田県消防操法大会出場順

| 支部名 | 種目等 | 種目等 | |
|---------|------|-----------|----------|
| | | 小型ポンプ操法の部 | ポンプ車操法の部 |
| 鹿角 | 角 | 1 | 6 |
| 大館北秋田 | 北秋田 | 6 | 7 |
| 能代市山本郡 | 山本郡 | 5 | 1 |
| 男鹿潟上南秋 | 潟上南秋 | 9 | 4 |
| 秋田市 | 秋田市 | 3 | 5 |
| 由利本荘にかほ | にかほ | 2 | 2 |
| 大仙仙北美郷 | 仙北美郷 | 7 | |
| 横手市 | 横手市 | 4 | 3 |
| 湯沢市雄勝郡 | 雄勝郡 | 8 | |

※ 9月6日(金) 秋田県消防学校で実施

「消防団員確保対策に関するシンポジウム」開催される

平成二五年五月二二日(水)東京都港区虎ノ門日本消防会館において「消防団員確保対策に関するシンポジウム」が財団法人日本消防協会の主催で開催されました。

東日本大震災を経験し、国民の安全確保のため、地域の総合的な防災力の強化の必要性、その中核となる消防団の重要性が改めて認識されました。一方で、消防団員の全国的な減少傾向が続く等、消防団員の確保が大きな課題になっています。

特に本年が消防団一二〇年・自治体消防六五周年の記念すべき年でもあることから、改めて全国の消防関係者を中心とする幅広い方々の参加を得て、今後の消防団員確保対策の強化に資することを目的に開催されたものです。

なお、本県からは鹿角市消防団長黒澤文男氏が鹿角市消防団の活動状況について「事例報告」を行いました。



公益財団法人秋田県消防協会 理事・監事・評議員 (平成25年5月29日現在)

〔理事〕

| 役 職 | 氏 名 | 所属・階級等 |
|--------|---------|--------------------------|
| 会 長 | 中 田 潤 | 能代市消防団 団長 |
| 副 会 長 | 草 彌 忠 誠 | 大仙市消防団 団長 |
| " | 成 田 十喜男 | 大館市消防団 団長 |
| " | 海 野 達 雄 | 秋田市消防団 団長 |
| 理 事 | 渡 辺 雅 人 | 秋田県総務部総合防災課 課長 |
| " | 黒 澤 文 男 | 鹿角市消防団 団長 |
| " | 稲 葉 盛 榮 | 横手市大森消防団 団長 |
| " | 古 戸 俊 行 | 潟上市消防団 団長 |
| " | 近 野 宗 一 | 湯沢市消防団 団長 |
| " | 周 防 彦 宗 | 由利本荘市消防団 団長 |
| " | 小 林 博 美 | 秋田市消防本部 消防長 |
| " | 菅 原 達 美 | 大曲仙北広域市町村圏組合 消防本部 消防長 |
| " | 泉 篤 | 能代山本広域市町村圏組合 消防本部 消防長 |
| 業務執行理事 | 高 橋 尚 文 | 秋田県消防協会 事務局長 |

〔評議員〕

| 役 職 | 氏 名 | 関係する消防機関等 |
|-------|---------|------------------|
| 評議員長 | 佐 藤 金 一 | 羽後町消防団 |
| 評 議 員 | 割 石 博 之 | 鹿角市消防団 |
| " | 澤 口 紀 夫 | 小坂町消防団 |
| " | 米 田 均 | 鹿角広域行政組合消防本部 |
| " | 金 田 咲 美 | 北秋田市消防団 |
| " | 北 林 義 高 | 上小阿仁村消防団 |
| " | 畠 山 亮 一 | 大館市消防本部 |
| " | 長 岐 順 一 | 北秋田市消防本部 |
| " | 金 子 忠 夫 | 三種町消防団 |
| " | 本 多 健 | 八峰町消防団 |
| " | 一 関 鏝 一 | 五城目町消防団 |
| " | 池 田 彰 | 大湯村消防団 |
| " | 天 野 正 廣 | 男鹿地区消防一部事務組合消防本部 |
| " | 伊 藤 繁 | 湖東地区消防一部事務組合消防本部 |
| " | 伊 藤 隆 | 五城目町消防本部 |
| " | 備 後 孫 忠 | 秋田市消防団 |
| " | 鈴 木 正 | 秋田市消防団 |
| " | 石 綿 喜代隆 | 由利本荘市消防団 |
| " | 佐々木 護 | にかほ市消防団 |
| " | 佐々木 輝 一 | 由利本荘市消防本部 |
| " | 伊 東 善 輝 | にかほ市消防本部 |
| " | 佐 藤 生 治 | 仙北市消防団 |
| " | 高 橋 正 尚 | 美郷町消防団 |
| " | 泉 信 一 | 横手市横手消防団 |
| " | 佐々木 一 義 | 横手市大雄消防団 |
| " | 伊 藤 弘 明 | 横手市消防本部 |
| " | 佐々木 謙 吉 | 東成瀬村消防団 |
| " | 佐 藤 敏 彦 | 湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 |

〔監 事〕

| 役 職 | 氏 名 | 所属・階級等 |
|-----|---------|-------------|
| 監 事 | 成 田 俊 昭 | 小坂町消防団 団長 |
| " | 鈴 木 清 | 男鹿市消防団 団長 |
| " | 高 階 健太郎 | 横手市山内消防団 団長 |

平成24年度決算〔正味財産増減計算書内訳表〕

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

| 科 目 | 公益事業 | 共益事業 | 管理事業 | 内部取引 | 合 計 |
|------------|--------------|------------|-------------|------|------------|
| 経常収益計 | 23,956,107 | 15,286,058 | 2,934,033 | | 42,176,198 |
| 主な内訳 | | | | | |
| 基本財産受取益 | 902 | | | | 902 |
| 受取会費(掛金) | 0 | 5,718,600 | 0 | | 5,718,600 |
| 事業収益 | 220,500 | 0 | 0 | | 220,500 |
| 受取補助金等 | 9,551,470 | 5,483,658 | 586,500 | | 15,621,628 |
| 受取負担金 | 10,085,235 | 1,383,698 | 896,366 | | 12,365,299 |
| 受取寄付金(会費) | 3,288,000 | 1,174,000 | 1,408,700 | | 5,870,700 |
| その他経常収益 | 810,000 | 1,526,102 | 42,467 | | 2,378,569 |
| 経常費用計 | 28,865,230 | 8,149,956 | 4,668,732 | | 41,683,918 |
| 主な内訳 | | | | | |
| 給与等 | 8,797,729 | 2,215,800 | 2,660,562 | | 13,674,091 |
| 旅費交通費 | 2,424,315 | 324,540 | 493,980 | | 3,242,835 |
| 備品消耗品費 | 1,358,285 | 2,024,039 | 131,801 | | 3,514,125 |
| 印刷製本費 | 1,797,942 | 316,071 | 7,035 | | 2,121,048 |
| 支払助成金 | 1,100,000 | 50,000 | 0 | | 1,150,000 |
| 委託費 | 1,468,058 | 0 | 0 | | 1,468,058 |
| 見舞金支出 | 0 | 2,860,000 | 0 | | 2,860,000 |
| 操出金 | 9,510,142 | 0 | 0 | | 9,510,142 |
| その他経常費用 | 2,408,759 | 359,506 | 1,375,354 | | 4,143,619 |
| 経常外費用計 | | | 7,267 | | 7,267 |
| 当期経常増減額 | △ 4,909,123 | 7,136,102 | △ 1,741,966 | | 485,013 |
| 一般正味財産期末残高 | △ 13,567,448 | 18,925,485 | 1,925,613 | | 7,283,650 |
| 指定正味財産期末残高 | △ 13,567,448 | 18,925,485 | 1,925,613 | | 7,283,650 |
| 主な内訳 | | | | | |
| 基本財産 | 3,000,000 | 0 | 0 | | 3,000,000 |

第六七期初任教育 消防学校に入校して

秋田県消防学校

第六七期初任教育の入校生は、四月一二日の入校式からもう二ヶ月が過ぎました。

入校当初、全く未知の分野である消防の教育訓練への不安、寮での共同生活への戸惑いなどが感じられたが、今ではみんなが協力して日々の学校生活を送っています。

教育訓練も五月に入ると、体力錬成、礼式訓練から消防基礎技術の習得へと移行し、現在では、空気呼吸機器取扱訓練、身体結索訓練などの実技訓練が本格化してきています。

こうした中、消防学校から「一ヶ月を振り返って」と題した作文が寄せられたので紹介します。



入校当日、これから始まる消防学校の生活に期待と不安を抱きながら、消防学校の門を潜った。

消防学校に入校します初めて目に飛び込んできたのが、和春教官の顔であった。「自分の部屋番号、学籍番号を確認したら、さっさと荷物を整理しろ。」と激を飛ばされた。これが消防学校の始まりであった。

我が六七期は消防学校始まって以来の最多入校者数であり、九六名もいると、多種多様な集合体である。個性的な人たちが多く、私は最年長ということもあり、総代に任命された。正直なところ、私のような人間が総代を任せてもらうには荷が重すぎるが、任命された以上九五名をまとめ総代としての任務を全うしていこうと思う。

残り五ヶ月間、この期間を長いと感じる者、短いと感じる者がいると思うが、恐らく修了式を迎える頃には、ほとんどの者が早かったなあと感じると思う。だとしたら、残りの五ヶ月間を有意義な期間にするため、毎日を大事に過ごしていきたい。そして今後の消防人生の財産になるであろう同期生との時間を大切に、時には笑って時には励まし合って、切磋琢磨しながら、互いの絆を強固にしていきたい。



総代
阿部 誠
(湯沢雄勝広域市町
村圏組合消防本部)



副総代
佐藤 卓
(由利本荘市
消防本部)

約一ヶ月を振り返って、私自身の至らない部分を多く感じました。

まず、自分自身の体力のなさです。訓練を含めた体力錬成では、周囲より遅く、同じクラスメイトに迷惑をかけていると感じています。それなのに、四つん這いになっての競争の時など、私に「卓さんがんばれ」と大きな声で声援をしてくれます。私自身は、本当に励まされ頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいになります。そして消防学校に入校して良かったという気持ちにさせてくれます。しかし、これに甘えてはいけないことも強く実感しています。クラスに迷惑をかけていることには変わりません。今すぐ追いつくことは、厳しいかもしれませんが、残りの消防学校生活で皆に追いつき迷惑をかけないことを目標に、自主体力錬成に励んでいきます。

同部屋のみんなにも迷惑をかけています。訓練の際に私がうまくできなかった部分を、一緒につきあってもらいましたし、部屋長からは暖かい言葉もかけていただきました。ありがとうございます。クラスでは最年長、全体では副総代として、阿部総代をサポートし、これまで以上に自覚を持ち取り組んでいこうと思います。



副総代
高橋 洋平
(横手市消防本部)

入寮日初日は不安だらけでした。しかしそんな思いも同じく不安な顔をしている九五人を見ると半年間一緒に切磋琢磨していこうという気持ちに変わりました。

四月一二日は入校式でした。当日は各消防本部の消防長をはじめ多くの家族、またテレビカメラや取材の方の姿がありました。あらためて自分たちが「消防士」という道を歩み始めたということ、そしてなにより自分たちは消防士なんだという責任が強くなりました。

次の週からは、いよいよ学校生活が始まりました。授業の最初は、消防六法の使い方に多くの時間を使ってしまう状態でした。訓練では毎日のように新しい科目がどんどん始まります。全員が理解するのを待つてはくれません。すべて身につけるためにも、仲間と協力し反復訓練や復習をしつかりと行っていきたいと思っています。

自分の消防学校卒業後の最初の目標は、現場の先輩方として認められ、一人前の消防士として認められたいです。そのためにも、学校生活は全てにおいて全力で取り組み、九五人の仲間と「やりきった」と思える半年にしたいと思います。



会 計
下 総 広 幸
(横手市消防本部)

慌ただしく日々は過ぎ、想像以上に時間が早く進むことを実感している。これから先、この感覚はより一層強くなっていくだろう。

生活にも慣れ、同期のみんなとも仲良くなり、楽しい時間が増えていけばいくほど一日の終わりは早くなるはずだ。限られた時間の中で我々のすべきこと、学ぶこと、また技術として体得していくことは非常に多い。一つ一つその都度覚えていかなければ中々前に進めず成長できない。実技の授業では、しっかりと復習してその日学んだことをその日のうちに体に染みつかせ、座学では、効果測定のためではなく、これから先も覚えていくような、現場で活かせるような知識の習得のための勉強が必要である。半年間の学校生活で学んだことを満遍なく発揮していけるように、一日一日を大切に過ごしていこうと思う。

これから先、行事も増え、もっと忙しく、大変なことも出てくる、何をやるにしても、初めての経験で、戸惑うこともあると思う。全てのことにおいて、この同期のメンバー九六人で行動を共にするのはきつと今だけだ。一生胸に残るような思い出と一生付き合いたいなる友人を一つでも、一人でも多く作りたい。



会 計
三 浦 兼 晴
(大館市消防本部)

初めて訓練礼式を教わった時は、何に使うものなのか全くわからなかったが、他の訓練が始まるにつれ、とても重要なものであることが分かってきた。例として挙げると、訓練の始まりと終わりや、ポンプ操作及び通常点検の一つ一つの行動がある。これらには訓練礼式は消防生活において基本中の基本であることを実感した。今後は、これを重点的に使用する通常点検やその指揮者を行えるように復習するとともに、さらに増えてくる訓練礼式をしっかりとできるようにすることが、必要であると考えている。

第二に座学が挙げられる。座学では、消防法や消防組織法といった馴染みのない法令や、これまで大まかにしか知らなかった消防器具の名称や用途、特性など、全く知らなかったことを一から教わった。これらは今まで私の経験してきたことと違い、慣れない所も多いが、それはみんな同じであることから、しっかりとついていかなければならないと考えている。

今後は、さらに未体験の訓練及び知識が増えてくるが、消防学校を出た後に活かせるよう覚えて行きたいと思う。



渡 部 佳 也
(秋田市消防本部)

入校して一ヶ月、その中で私には二つの変化があった。

一つは「生活の変化」である。入校前の自分と比べて時間の使い方が変わった。これまで、自分の好きなように一日を過ごしていたが、学校での生活は、食事、睡眠をはじめ一日の流れが決まっている。そのため無駄な時間が減少し、自身の濃い時間を過ごしていることである。

二つ目の変化は「意識の変化」である。この一ヶ月で入校前よりも消防職員としての心構えができたように思う。消防という職業は、人命に直結している仕事であること、市民の税金によって仕事ができていることなど、学校で学ぶことでこれまでより深く考えさせられた。自分の置かれている立場を理解し、まずは初任科での学びを大切にしていこうと思った。

これらの変化は、消防の仕事をしていく上でプラスになっている。ここで思うのは、一人では作り出すことのできない変化であるということだ。親切に時には熱く指導してくださる教官方がおり、励まし合う仲間がいるからこそである。このような環境に感謝し、今後の学校生活を送っていききたい。



小 舘 廉 史
(鹿角広域行政組合
消防本部)

九六名という大人数の中で、私を含め、みんな不安があったと思います。でも、少しずつこの生活にも慣れてきている感じはします。集団生活を通じて、日々色々なことを発見し、お互い高め合える良き仲間をたくさん作りたいたいと思います。入校式前の練習では校歌を何度も歌いました、鼻歌や口笛も無意識のうちに校歌になっているほどでした。その甲斐あって本番では国歌、校歌ともに最高の歌声を来賓の方々に届けることができたと思います。一つの目標に全員で頑張っていくことの大切さも知り、とても思い出深い入校式になりました。

授業も本格的に始まり、覚えることが山ほどありますが、消防士としての基礎となるものなので、しっかりと覚えたいです。訓練ではまだ基本中の基本しかやっていませんが、それすらも出来ていないので、努力不足をあらためて痛感しています。

一ヶ月の間に次々と新しい課題が見つかったと思います。あと五ヶ月でどれほどの課題が見つかるかわかりませんが、一つ一つ解決し、次のステップに行けるように、毎日全力で過ごしたいと感じました。「やっつけてやるぞ」という気持ちをもらった一ヶ月でした。



伊藤 健
(能代山本広域市町
村圏組合消防本部)

入寮から入校式までの二日間は、オリエンテーションと入校式の練習等を行いました。オリエンテーションでは、消防学校の職員の方々と消防学校初任教育六七期の九六名全員が自己紹介を行いました。これから始まる厳しい訓練や座学に対するそれぞれの気持ちを語り取り、私もここでの日々を無駄にすることなく、全力で取り組んで行こうという気持ちが高まりました。

入校式の練習では、校歌や式場への入場の際の行進を何度も繰り返し、本番では、各消防本部の消防長や来賓の方々、父兄の皆様方の前で立派に終えることができました。

翌週からは、授業が本格的に始まりました。消防法や消防制度、消防機器等の座学、基本結索や三連梯子操法等の訓練を中心に行ってきました。その他、体力測定も実施し、全てを通して、自分がまだまだ力不足であることに気がつきました。

この一ヶ月を振り返ると、あっという間に時間が過ぎ去った感じがします。今日まで得た知識と技術を今一度復習し、残りの教育期間を充実したものにしていきたいと思えます。また、九六名の同期との絆も深めて行きたいと思っています。



松橋 皇成
(北秋田市消防本部)

この一ヶ月を振り返ってみると、とても内容の濃い一ヶ月だったと思う。まず初めに消防学校の寮に入寮し、不安でいっぱいだったが、すぐに同じ部屋の人とも仲良くなることができ、不安を和らげることができたと思う。同じ夢や目標を持った仲間、やはり大切な存在だと思える。これからの学校生活でも、いろいろなことがあり、悩みなども増えてくると思うが、仲間を大切にし、お互いに支えあえるような存在になりたいと考えている。

入寮してから二日後に入校式があり、入校式の前のリハーサルでは、常に本番を意識し、集中して頑張った。そのため、本番では行進や返事、歌、姿勢等の全てにおいて完璧に出来たと思う。体力測定では、今の自分の体力がどのくらいであるか、しっかりと確認することが出来た。しかし、数値はどれも低かった。消防士は、体力を必要とされる職業であるので、今後の体力練成でしっかりと自分を鍛え、次の体力練成では、今の結果を全て上回るようにしたい。この一ヶ月を振り返り、一日の大切さを改めて実感した。誰にも時間は平等にあるので、有効に使い、後悔のない学校生活にしていきたいと思う。他にもこの一ヶ月で様々なことを学んだ。初心や学んだことを忘れず、今後もしっかりと努力していきたい。



佐藤 佑
(五城目町消防本部)

四月十日に入寮日を迎え、初めて消防学校の寮に入りました。玄関の掲示板に張り出されている自分の番号を確認してから自分の部屋に入り、次にある服装点検に備え、点検が始まってから食堂に向かいました。点検で初めて教官の方々と接しましたが、厳しい雰囲気でした。でも、この厳しさが私たちを成長させてくれると感じて、あらためて消防学校で生活する半年間を頑張ろうと決意しました。

入寮日の翌日からは、準備と練習がありました。練習は数をこなすごとに九六人の動きが揃っていき、全員が一つになつていけると感じました。式の前に教官から「一生懸命さを出せ、そうすれば伝わるから」という言葉をいただき、良いモチベーションで入校式に臨むことができました。

式の出来は、練習の成果が発揮でき大成功だと思います。昨日より今日、今日より明日と一歩づつ確実に前に進み、半年後には、誰が見ても成長したと言ってもらえるように、妥協を許さず、最後まで全力疾走していきたいと思えます。



須藤 優真
(にかほ市消防本部)

寮生活にも慣れてきて、仲間もたくさんできました。正直、入寮する前は、一八歳から三〇歳という幅広い年齢層でうまくやっていけるか不安でした。しかし、積極的に会話することで、年上の方とも打ち解けることができました。

先日行われた効果測定で赤点だった者、どうして赤点を取ったのか考え、出た答えを行動に移しましょう。赤点でなかった者も、一喜一憂することなく、これから次々とくる効果測定でどんどん上を目指しましょう。

朝、佐藤教官が見せてくれる動画は、毎回心の奥底まで響きます。消防士は、厳しいということを見るたびに感じます。私情は二の次で仕事をしなければなりません。家族からは、誇りに思うと同時に命に関わる仕事なので、心配に思われています。そういうことを分かって仕事するのと、分からずに仕事するのでは動きが違ってきます。また、税金によって給料がでているということも理解して仕事をしなければなりません。

これからも、たくさんの方々の効果測定や行事、授業があります。みんなで協力して残り五ヶ月、成長していきたいと思えます。

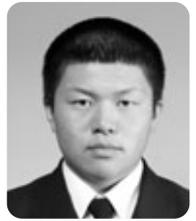


小澤 透
(男鹿地区消防一部 事務組合消防本部)

入校したての頃は、新しい生活に慣れるまでに苦労しました。今までの自分は夜更かしで、不規則な生活をしていたため、消防学校での早寝早起きの生活に体が馴染むまでに多少時間がかかりました。また、共同生活での緊張により気疲れもありました。このごろは規則正しい生活により、体の調子も良く、話せる仲間も増えたので、楽しく過ごせています。

消防学校に入校して感じたことは、学ぶことがとても多いということです。まだ、基礎の段階だが講義や訓練の進むスピードが速く、どんどん先へ進み、気付けば最初の効果測定が目前に迫っていました。消防学校で学ばなければならぬことはとても多く、八〇〇時間という限られた時間の中で習得していかなければならないので、一つ一つ習ったことをしっかりと身につけたいと思います。

この一ヶ月で消防学校での生活にも慣れ、楽しくなってきた頃ではありますが、ここで気を緩めずに、これからの学校生活がより良いものになるように頑張りたいと思います。



川口 直志
(湖東地区行政一部 事務組合消防本部)

人の命を助けたい、地域の安全を守りたいとは常に思っていたものの、そのような消防士になるまでのプロセスに消防学校があります。興奮や楽しみな気持ちもありましたが、正直不安と緊張の方が大きかったと思います。しかし入校してみると、先輩方は優しい人ばかりで、同級生も気の合う仲間ばかり、本当に恵まれたなあと思っております。

学校生活では、四月から消防法や消防制度など、今までの私達の生活に馴染みのなかったものを中心に学んでいます。最近では座学だけではなく、三連梯子や小型ポンプ操作などの実技なども増えてきて、消防士らしい事が始まったなあと思えます。

入校して、たくさんのお出来事があり、たくさんのお話を学びましたが、自分にとって一番良かったことは、一ヶ月もかからずに私の不安や緊張はほとんど解消され、楽しさや将来活躍するというイメージを持てる自分が現段階でいるということです。今の私がここに在るのは、私自身の力だけでなく、教官と周りの学生全員のおかげです。これからは九六人全員で切磋琢磨しながら成長していきたいと思っております。



茂木 信哉
(大曲仙北広域市町 村圏組合消防本部)

「お前達の代わりはいくらでもいる。」初日の夜に佐藤教官が言ったこの言葉がとても印象に残っている。残念ながら試験に失敗した人の中には私よりも消防に向いている人がいたかもしれない。しかし、私も中途半端な気持ちでこの仕事を選んだわけではない。消防学校で自分の限界を知るという目標を持ち入校した。自分の限界を知るためには、常に全力で取り組むことが重要になる。この一ヶ月、訓練礼式、体力錬成、座学、訓練など多くのことを経験したが、「もつとできたのではないか。」と思う場面が多々あったと思う。このままでは、目標を達成するどころか、市民の前で胸を張ってこの仕事は私の天職だと言おうことができない。

少しのことで満足せず、完璧を目指し、全力で取り組むことを再び確認し、初心を忘れずに残りの学校生活を送りたい。そして、教官が言ったように「気の使える消防士」となり所属に帰りたいと思う。

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

遭難防止に一役

鹿角市消防団

鹿角市消防団第一六分団は、五月一九日(日)本格的な山菜採りシーズンを前に、十和田大湯地区で特に入山者の多い場所に遭難防止を呼びかける幟旗の設置と啓発巡回活動を自主的に行いました。毎年、県内外から多くの入山者が全国的に評価の高いタケノコを求めて鹿角の地を訪れますが、入山者の増加につれ、遭難事故も後を絶ちません。平成二四年度は、鹿角管内



で山菜採りによる遭難事故は一八件発生しております。鹿角市では、これらを防止するために林道の滑落危険箇所や、沢の分岐点に下山の方向を示した看板を設置しています。過去には、山菜採りに夢中になるあまり、道に迷った遭難者がこの看板を頼りに自力下山したという奏功事例がありました。また、鹿角市消防団救急救助支援隊として、平成二一年に秋田県で初めて発足した同分団は、AED、チェンソー等の救急救助資機材を装備しており、火災のみならず、様々な災害現場に対応できるよう訓練を重ね、地域の安全・安心のため活動しています。

(情報提供 鹿角支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

Table with 8 columns: Category, Heisei 25 Year (May, Total), Heisei 24 Year (May, Total, Annual), and Comparison (May, Total). Rows include Building, Forest, Vehicle, Other, Total, Deaths, and Injuries.

第66回秋田県消防大会 男鹿潟上南秋支部開催のお知らせ

落語家 桂三若さんによる防災に関する講演のほか、なまはげ太鼓、八郎潟願人踊のアトラクションもあります。地域の方々も是非お出掛け下さい。

開催月日 平成25年6月29日(土) 午後1時から
開催場所 男鹿市船川港船川 「男鹿市民文化会館」

トーハツ消防ポンプ モリタ自動車ポンプ 消防被服全般 秋田県代理店 総合防災設備センター

株式会社 高義商会

- (営業種目) トーハツ小型動力ポンプ モリタ自動車ポンプ ジェットホース 消防被服全般 火災報知器各種 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕カギ

秋田県横手市寿町1番28号 TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ キンパイホース トーハツポンプ シバウラポンプ 各種消防機械器具 各種消火器 消防設備保守点検

ホームページ http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/ E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp